

令和2年度実施 協働事業

**協働事業審査会
公開プレゼンテーション**

◆会場 ひらつか市民活動センター

◆開催日 令和元年10月5日(土)

目次

- 公開プレゼンテーション スケジュール・・・・・・・・・・・・ P 1

- 市民提案型協働事業
 - ①「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト(継続)・・・・・・・・・・・・ P 2
 - ②図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(継続)・・・・・・・・・・・・ P10
 - ③平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業(新規)・・ P15
 - ④バリアフリーサポートサイト構築(新規)・・・・・・・・・・・・ P22

- 行政提案型協働事業
 - ⑤生物多様性保全推進事業(継続)・・・・・・・・・・・・ P28
 - ⑥着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施(新規)・ P35

令和2年度実施協働事業 公開プレゼンテーションスケジュール

●開催日：令和元年10月5日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時間	内容
13:30 (会議室)	<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業審査会委員長あいさつ ・協働事業審査会委員紹介 ・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
13:40	<p>市民提案型協働事業プレゼンテーション</p> <p>※提案団体プレゼン（5分）、質疑応答</p> <p>（継続提案）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト ②図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業 （新規提案） ③平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業 ④バリアフリーサポートサイト構築 <p>行政提案型協働事業プレゼンテーション</p> <p>※担当課説明（3分）、提案団体プレゼン（5分）、質疑応答</p> <p>（継続提案）</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑤生物多様性保全推進事業 （新規提案） ⑥着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施
15:25	<p>事務連絡</p>
15:30	<p>閉会予定</p>

(宛先)

平塚市長

団体名	特定非営利活動法人 MAMA-PLUG
代表者	荻野 潔
事業担当課	災害対策課
提案型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 (提案 年分) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成 31 年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	「アクティブ防災」で作る、 手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト	
②事業の目的・ 必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	いざというときに防災弱者になり得る妊婦、乳幼児連れ、子ども、そして子どもの保護者や保育士等を対象に、ママプラグが培って来た「アクティブ防災」でのノウハウ (過去の災害の体験談を自分ごととして捉えてもらえるような内容の、オリジナルのグループワークや資料など) を活かし、生きのびる力とスムーズにコミュニケーションを図る力を身につけ、「妊婦や乳幼児連れの母親などを中心に、災害対策を講じづらい層の災害意識を向上し、より災害に強い平塚市」を目指す。 また、身につけた防災力を継続させ、市内の団体や保育士等につないでいけるような事業とすることで、持続可能な防災事業とする。	
③協働の必要性・ メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必要性	災害が起き、平塚市が被災地となってしまった場合、在宅避難または避難所のスムーズな運営が、復興スピードの鍵となる。 対象である、妊婦、乳幼児連れ、子どもは、被災時に地元にいる可能性が最も高く、「地域住民」として避難所の実態や自助・共助の必要性をより身近に感じてほしい層である。市と連携することにより、このような若年家族層に、自助・共助の必要性を感じ、「地域住民」として様々な世代とのコミュニケーションを促進することができるほか、避難所で過ごす際も自ら積極的に運営側に関わるような啓発をしていきたい。
	メリット	(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) 災害について不安感が増す「妊娠時」「子育て時」に、災害に対する対処法や考え方を学べる防災セミナーを受講することで不安を解消し、災害への備えに着手できる。 また行政と連携することにより実現するセミナーの開催により、実用性の高い防災力を身につけることができる。 (団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) 平塚市と連携し協働することで、行政の現状や対応について知り、地域防災の見識を広げることができる。また、協働でなければ実現が難しい、年間を通した集中的かつ包括的な防災セミナーを実施することができる。

	<p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) これまで多くの自治体と連携してきたママプラグの生活者としての視点を取り入れた家族目線の防災は新しい取り組みであり、地域に一定数存在する「防災無関心層」「防災未対策層」に新たな視点を入れ、地域防災をより強固なものにすることができる。</p>
<p>④事業のアピールポイント この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>「防災ゼロをゼロに！」というテーマを掲げ、アクティブ防災事業を東日本大震災以降継続している。 アクティブ防災は「防災は、必要だけれども気が重い」という人が多い中、少しでも取り組みやすく防災を啓発していけないかを模索して立ち上げたプロジェクトである。 その中でも特に、女性・子どもは、災害時に生活しづらいことが多く、その具体的なニーズを把握できるのも、これまでの活動で培った各団体とのネットワークや、書籍「子連れ防災手帖」を出版する際に行った東日本大震災被災女性 812 人への取材等による経験がある、当団体ならではの事業と言える。</p>
<p>⑤事業概要・計画 スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p><4月> ・「プレママ〜2歳までのお子さんの保護者のための防災セミナー」の副読テキスト（2種）作成 ・子連れ孫連れセミナー（座学編）テキスト作成</p> <p><5月> ・セミナー①「プレママ〜2歳までのお子さんの保護者のための防災セミナー①知識編」実施 ・看護職向け防災セミナーのテキスト作成 ・子連れ孫連れセミナー（ワークショップ編）テキスト作成</p> <p><6月> ・セミナー②「プレママ〜2歳までのお子さんの保護者のための防災セミナー①実践編」実施 ・セミナー③「子連れ孫連れ防災セミナー①」（座学編）実施 ・保育士向け防災セミナーのテキスト作成</p> <p><7月> セミナー④「子連れ孫連れ防災セミナー②」（ワークショップ編）実施</p> <p><8月> セミナー⑤「保育士向け防災セミナー」実施</p> <p><9月> セミナー⑥「プレママ〜2歳までのお子さんの保護者のための防災セミナー②知識編」実施</p> <p><10月> セミナー⑦「プレママ〜2歳までのお子さんの保護者のための防災セミナー②実践編」実施 セミナー⑧「看護職向け防災セミナー」実施 セミナー⑨「防災ピクニック①（平日）」実施</p> <p><11月> セミナー⑩「防災ピクニック②（土）」実施</p> <p><12月～3月> アンケート集計や報告レポートを作成</p>

<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーテキスト作成 (①～⑧) ・プレママ～2歳までのお子さんの保護者のための防災セミナー実施 ・子連れ孫連れ防災セミナー実施 ・看護職向け防災セミナー実施 ・保育士向け防災セミナー実施 ・防災ピクニック実施 ・PR ・アンケート集計 <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平塚市の情報の提供 ・市内の関連団体への連絡/相談 ・セミナーの告知・集客 ・チラシ、テキストの印刷 ・セミナー会場の確保 ・備蓄非常食の提供
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県との協働事業で連携している「311ネットワーク」などの団体と防災情報の交換共有をしている。 ・「スマートサバイバープロジェクト」と情報共有し、子育て層以外の層の課題を把握している。 ・川崎市下作延中央町内会と協働で毎年防災訓練を実施している。 ・神奈川県実施のボランティアフェスタの実行委員会を務め、県内の多くの市民団体・NPOとのネットワークを作っている。 ・平塚を拠点に地元の情報紙を発行している「湘南ジャーナル社」と連携し、セミナーや協働事業の広報・PRをしている。(2019年度)
<p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職・保育士への防災セミナー実施により、災害時の対応を学ぶとともに、患者や園児、またその家族への防災教育に役立ててもらい、協働事業終了後も継続して平塚市の防災啓発の向上につなげられるようにする。 ・子連れ孫連れ防災セミナー参加者には平塚市内の団体(平塚パワーズ等)の紹介をすることで参加を呼びかける。 ・防災ピクニックを平日と週末の2回行うことで、母親だけでなく、父親にも家庭防災へ参加してもらうようにする。 ・妊婦や子連れの女性も、災害に対する意識が高くなることにより、妊婦や子連れの女性が平塚市の掲げる「選ばれるまち、住み続けるまち」につながるようにする。 <p>(成果目標値：セミナー受講者述べ人数200名(各回20名想定)、父親参加率を2019年度よりも上げる。参加者全体の人数を2019年度よりも上げる。)</p>
<p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<p>※ご不明の場合は、事業担当課へご確認ください。</p>

<p>⑩実施年度以降の 展望</p> <p>今回提案の事業実施 年度以降の展望を記 入してください。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 実施年度以降も提案型協働事業で実施</p> <p>※市支出見込額（2年目_____円、3年目_____600,000円）</p> <p><input type="checkbox"/> 提案型以外の方法で協働を継続</p> <p><input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 終了する</p> <p><input type="checkbox"/> その他（ _____ ）</p> <hr/> <p>（実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項）</p>
--	--

2 企画提案団体の概要

①団体名	(ワガナ) トクテイヒエイリカツドウホウジン ママプラグ 特定非営利活動法人 MAMA-PLUG		
②所在地	〒 東京都渋谷区		
③ホームページ	https://web-mamaplug.com		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	宮丸みゆき (役職) 理事・アクティブ防災事業副代表	
	電話	(連絡可能な時間帯) 9:00-17:00	
	FAX		e-mail
	住所	〒 東京都渋谷区	
⑤設立年月	2009年 9月 (法人格取得年月 2013年 2月)		
⑥会員の状況	個人会員	13人 (うち平塚市民 0人)	団体会員 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>家族の「生きる力」を高めるための「アクティブ防災」を啓発中。自治体への防災アドバイスやセミナー開催、各企業でのコンサルティング、防災冊子の制作などを中心に行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県との協働事業 (神奈川ボランティア活動推進基金 21 採択プログラム 2013 年~2017 年) 「男女共同参画型防災ネットワークング アクティブ防災事業」および「アクティブ防災ファシリテーター養成事業」として、5 年間神奈川県内を中心にセミナー開講やイベント参加を実施。 「子連れ防災」の視点を活かした防災について、自治体との連携を強化した。 ・トヨタ財団 2012 年トヨタ国内助成プログラム採択 「地域交流プログラム 異世代交流で防災に強い川崎」として川崎市で子連れ世代とシニア世代を巻き込んだ防災ピクニック事業を展開。 すくらむ 21、下作延中央町内会、川崎市役所と協働して行った。 ・「妊産婦・乳幼児を中心とした災害時要援護者の福祉避難運営を含めた地域連携防災システム開発に関する研究」にて発表 ・広島県「防災先進地域における取り組み事例に係る調査結果」で事例発表 ・内閣府「国土強靱化民間の取り組み事例」 ・内閣府 HP 掲載 ・川崎市制 90 周年記念奨励賞受賞 ・川崎市高津区防災マニュアル制作 ・2017 年 東京都発行「東京暮らし防災」編集・検討委員 ・2019 年農林水産省「あってよかった！食品備蓄家庭ポータル冊子・サイト」委員 ・yahoo! JAPAN「防災ダイバーシティ」アンバサダー ・平塚市との協働事業 (2019 年) (市民提案型協働事業「アクティブ防災で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト」) ・東京都 東京防災展 2019 シンポジウム監修およびパネリスト登壇 		

	<p>講座実績 神奈川県総合防災センター、埼玉県防災学習センター、平塚児童相談所、茅ヶ崎市、座間市、町田市、八王子市、北区、港区、世田谷区、東久留米市、あきる野市、高津区地域教育会議、東京消防庁、愛知県豊田市、三重県伊賀市、岐阜県岐阜市、岐阜県美濃加茂市、新潟県佐渡市、静岡県三島市等、全国の自治体、学校、幼稚園、保育園、企業などで実施</p> <p>メディア実績 <テレビ>日本テレビ「バゲット」（不定期防災コーナー出演中） NHK「あさいち」、テレビ朝日「東京サイト」、 テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」、フジテレビ「みんなのテレビ」、 フジテレビ「とくダネ！」等。 <ラジオ>J-wave、文化放送、NHK ラジオ、TBS ラジオ、山口放送防災コーナーレギュラー等 <新聞>日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞、その他地方新聞等 <WEBメディア>その他、日経 DUAL 連載 12 回、yahoo! ライフマガジン等</p> <p>書籍 「被災ママ 812 人がつくった子連れ防災手帖」（KADOKAWA/メディアファクトリー） 「被災ママ 812 人がつくった子連れ防災実践ノート」（〃） 「防災ピクニックが子どもを守る！」（〃） 「被災ママに学ぶ ちいさな防災のアイデア 40」※協力（学研） 「全災害対応！子連れ防災 BOOK」（祥伝社）</p> <p>企業との取り組み ・全労済（現こくみん共済 coop）協働プロジェクト「ママ防災」冊子制作、防災リーダー育成 ・ユニ・チャーム（株）防災特設サイト「マイスタイル防災」制作・監修 ・日本デキシー（株）との防災紙カップ、防災紙皿の商品企画・監修 ・明治（株）液体ミルクに関するタイアップ</p>																																		
<p>⑧ 協働事業との関わり</p>	<p><input type="checkbox"/> 新たな事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模</p>																																		
<p>⑨ 活動体制</p> <p>活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>役職等</th> <th>氏名</th> <th>協働事業での役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 会長</td> <td>荻野 潔</td> <td>全体統括</td> </tr> <tr> <td>② 理事・アクティブ防災事業代表</td> <td>富川 万美</td> <td>全体統括、企画、折衝、</td> </tr> <tr> <td>③ 理事・アクティブ防災事業副代表</td> <td>宮丸 みゆき</td> <td>企画、テキスト作成、折衝、セミナー講師</td> </tr> <tr> <td>④ 理事</td> <td>小暮 裕美子</td> <td>メンバー統括、経理総括</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>森 民子</td> <td>経理実務</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>児玉 陽子</td> <td>セミナー講師、セミナー運営等</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>後藤 悦子</td> <td>セミナー講師、アシスタント等</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>橋本 裕美子</td> <td>セミナー講師、アシスタント等</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>高野 優美恵</td> <td>アシスタント等</td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>長沼 さおり</td> <td>アシスタント等</td> </tr> </tbody> </table>	役職等	氏名	協働事業での役割	① 会長	荻野 潔	全体統括	② 理事・アクティブ防災事業代表	富川 万美	全体統括、企画、折衝、	③ 理事・アクティブ防災事業副代表	宮丸 みゆき	企画、テキスト作成、折衝、セミナー講師	④ 理事	小暮 裕美子	メンバー統括、経理総括	⑤	森 民子	経理実務	⑥	児玉 陽子	セミナー講師、セミナー運営等	⑦	後藤 悦子	セミナー講師、アシスタント等	⑧	橋本 裕美子	セミナー講師、アシスタント等	⑨	高野 優美恵	アシスタント等	⑩	長沼 さおり	アシスタント等	
役職等	氏名	協働事業での役割																																	
① 会長	荻野 潔	全体統括																																	
② 理事・アクティブ防災事業代表	富川 万美	全体統括、企画、折衝、																																	
③ 理事・アクティブ防災事業副代表	宮丸 みゆき	企画、テキスト作成、折衝、セミナー講師																																	
④ 理事	小暮 裕美子	メンバー統括、経理総括																																	
⑤	森 民子	経理実務																																	
⑥	児玉 陽子	セミナー講師、セミナー運営等																																	
⑦	後藤 悦子	セミナー講師、アシスタント等																																	
⑧	橋本 裕美子	セミナー講師、アシスタント等																																	
⑨	高野 優美恵	アシスタント等																																	
⑩	長沼 さおり	アシスタント等																																	

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	560,251円	市の支出	560,251円
		団体の支出(他の収入等)	0円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 560,251	
団体の支出		
事業収入		
収入合計	A 560,251	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
人件費(会員謝金)	451,351	451,351	各講座(①~⑤、⑧)テキスト作成 5H×1人×1,011円×6講座=30,330円 アンケート用紙作成(①~⑤、⑧、⑨) 3H×1人×1,011円×7講座=21,231円 チラシ原稿作成(①、③、⑥、⑨) 5H×1人×1,011円×4講座=20,220円 セミナー講師 (資料作成・打ち合わせ等準備を含む各講座15-20時間程度) (30,000円+振込手数料550円)×10講座=305,500円 セミナーアシスタント(3H×1人×1,011円+振込手数料330円)×10講座=33,630円 アンケート集計 4H×1,011円×1人×10回=40,440円
報償費	25,520	25,520	セミナー時の保育士派遣費用 {2人×(2H×1,230円+交通費400円+振込手数料330円)×4講座(①、②、⑥、⑦)}=25,520円
諸経費	58,380	58,380	<セミナー②、⑦で使用> 液体ミルク 40名分 24本 250円×24=6,000円 赤ちゃん用イオン飲料 40名分 20本 120円×20=2,400円 衣類用圧縮袋 60枚×110円=6,600円 <セミナー⑨、⑩で使用> パン缶詰 12缶×550円=6,600円 水もどり餅 10袋×550円=5,500円 フリーズドライ米 12袋×500円=6,000円 ふりかけ 4袋×120円=480円 (防災ピクニックで参加者が試食する分。平塚市備蓄からは白がゆを提供予定) モーリアンヒートパック 14セット×1,000円=14,000円 防災ウエットシート 4個×700円=2,800円 デモ用缶詰、レトルト食品、お茶 2,000円 配膳用紙皿、紙コップ、割り箸等 2,000円 <セミナー④、⑤、⑧で使用> 模造紙 2,000円 付箋 2,000円

旅費・交通費	25,000	25,000	セミナー講師交通費 1,000円×10回=10,000円 アシスタント交通費 1,000円×10回=10,000円 打ち合わせ等交通費 1,000円×5回=5,000円
支出合計	B 560,251	D 560,251	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)

平塚市長 殿

団 体 名	特定非営利活動法人ぜんしん
代 表 者	柳川 涼司
事業担当課	社会教育部中央図書館
提 案 型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 (提案 年分) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成 31 年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	過去3年間に渡り、不登校・ひきこもりに悩む親子に対し、市の青少年課と協働し、彼らへ居場所を設け、相談に応じる等しながら問題の改善と自立を促す事業を行って来た。ひきこもり状態から脱し、居場所を訪れた若者が更に自信を高め、自立する為には、居場所以外のシーンで成功体験を積み重ねることが求められる。そこで、本事業では、不登校等で悩む若者が中央図書館でのボランティア体験を通して自信を培い、社会復帰への意欲を高めることで、復学・進学・就労といった自立を促すことを目的とする。	
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必要性	更なる解決策を見出せない当事者を自立へ導くには、団体の培った支援ノウハウと公共施設でのボランティア体験を活用することが望ましい。協働により当事者は、ワンストップで信頼性の高い支援を享受できる。
	メリット	(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) ・元当事者サポーターが作業等に寄り添う為、手厚い支援が得られる ・参加者の状況を考慮した作業で、段階的に自立意欲を高められる ・自信の回復に至った当事者が、就労に向け、相談を受けられる
		(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) ・事業実施に要する「ボランティア体験スペース」を確保できる ・市の施設にて関連する職員と協働することで団体の信頼度が高まる ・拡充が求められる就労支援メニューを追加することが可能になる
④事業のアピールポイント この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校やひきこもり等を経験したサポーターと市の職員が手を組むことで、悩みを抱えている当事者が安心して本事業に参加できる ・書籍のクリーニング・修復、リサイクル図書の整理、運搬、リクエスト本の調達ほか、市の職員がこなし切れない業務負担を低減できる ・ボランティア体験における作業内容のマニュアル化を図ることで、市と団体がお互いの事業においても当該マニュアルを有効活用できる ・当事者は多様な人々と様々な作業を経験することで自立に向け、自信を培える 	

<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>①4月 図書館での作業内容の更新・追加ヒアリングの実施(1回) 追加する作業内容の選定、「体験者用作業マニュアル」の更新、団体の「スタッフ用作業マニュアル」の作成向け、市の奉仕スタッフと確認等を行う(団体と市の担当者確認も含む)</p> <p>②5月～3月 当事者が利用する「体験者用作業マニュアル」の更新と団体の「スタッフ用作業マニュアル」の作成に向けた編集会議(5回) 市の奉仕スタッフと作業内容等を協議する編集会議を開催</p> <p>③5月～3月 マニュアル・アンケート・打合せ等の書類作成(22回)</p> <p>④5月～2月 ボランティア体験をするスタッフの研修(5回) 団体スタッフが、ボランティア体験の内容を十分に理解し、実践する。各回3名の団体スタッフが作成済みの「体験者用作業マニュアル」を確認しながら研修に参加。本年度は、市の奉仕スタッフの助けが不要になるレベルを目指す。また、団体の「スタッフ用作業マニュアル」を確立させる為、多くの作業写真を撮影する等して作業マニュアルに反映させていく。</p> <p>⑤6月～2月 ボランティア体験の本格実施(当事者3名/5回) 作成した「体験者用マニュアル」をもとに当事者がボランティア体験を受ける。当事者と団体スタッフは、1対1にて寄り添い型支援に徹しながらバックヤード作業を中心に作業を行っていくが、希望者にはフィールド業務体験への参加も徐々に促していく。団体スタッフは、当事者が好んで行う作業、躓きやすい作業等の内容をしっかりと把握していく。</p> <p>⑥2～3月 ボランティア体験アンケート集計、振り返り会議の実施(2回) 作業マニュアルのアップデート、作業の見直し、当事者の達成度確認等</p>
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校・ひきこもり等を経験した「寄り添いスタッフ」の提供 ※当日の指導や立ち会いは、団体スタッフが行う ・ボランティア体験参加者へ事前・事後の「メンタル的なケア」の実施 ・「作業マニュアル」や「振り返り資料」等の作成スタッフの提供 <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア体験参加者へ「会場」の提供 ・ボランティア体験参加者へ「体験作業」の提供 ・ボランティア作業の事前準備、マニュアル作り等に協力いただく奉仕スタッフ
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年課と新たな形態で開催する「居場所事業」と連携して実施する ・参加者のニーズに合わせて、日頃から団体が連携している市民活動団体等へボランティア体験メニューの周知を行っていく ・参加者の状況に応じて関連する医療機関の臨床心理士等とメンタルケアを行いながら本事業を展開していく ・当事者の紹介や支援活動の周知協力には以下の機関を予定している <p>(1)神奈川県立青少年センター (2)神奈川県平塚保健福祉事務所 (3)平塚市教育委員会 (4)平塚市子ども教育相談センター (5)平塚市児童相談所 (6)平塚市内各図書館 ほか市内外の団体・機関</p>

<p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市協働事業「不登校・ひきこもり改善・自立支援の参加者人数：37名(平成29年度)、63名(平成30年度)その内5名が参加を望む ・市内の不登校児童・生徒数の状況(平成29年度) <ul style="list-style-type: none"> a)小学校94人 b)中学校243人 計：337人(学校教育部・教育指導課) ・市内のひきこもり者数(推計・平成30年1月/15～39歳)：約1,063人(人口：67,721人×1.57%※1) ※1：内閣府調査(2016年)出現率で算出 <p>上記の中で該当する当事者がボランティア体験に参加することで、仕事や学業に対する意欲が高まり、自立につながる可能性がある</p> <p>(成果目標値：①運用版「体験者用作業マニュアル」の完成：1本 ②試作版「スタッフ用作業マニュアル」の完成：1本 ③ボランティアスタッフ研修の実施回数：5回 ④ボランティアスタッフ研修の参加人数：15名(3名/回) ⑤ボランティア体験の実施：5回 ⑥ボランティア体験に参加する当事者：15名)</p>
<p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<p>子ども・若者育成支援推進法</p>
<p>⑩実施年度以降の展望</p> <p>今回提案の事業実施年度以降の展望を記入してください。</p>	<p>■ 実施年度以降も提案型協働事業で実施</p> <p>※市支出見込額(2年目 <u>632,180円</u>、3年目 <u>849,280円</u>)</p> <p><input type="checkbox"/> 提案型以外の方法で協働を継続</p> <p><input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 終了する</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> <hr/> <p>(実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項)</p> <p>○3年目：ボランティア体験内容の拡張と成果・評価のレビューを作成(実施回数を増やしながら作業内容を拡張し、成果物を作成)</p> <p>○3年目以降：ボランティア体験者を募り、確立したプログラムを市と団体が協力して継続的に実施</p> <p>2年目の事業実施後も事業に参加した当事者らの意見等を踏まえて、ボランティア体験プログラムや人員配置等の見直しを図る。</p> <p>また、当事者がボランティア体験に参加したいと思えるようにプログラムやマニュアルを更新しながら、協働事業を継続していく。</p> <p>3年目には、当事者がバックヤード作業から受付付近の業務等を体験できるようにプログラムを拡張していく。当事者が更なる自信を得ることで、自立(復学や就労等)に繋がるように支援していきたい。</p> <p>更に、協働事業終了後の成果物として残る「マニュアル」や「レビュー」は、市と団体の双方の事業に活用できる有効的なツールになると考えている。</p> <p>3年目以降は、継続実施予定の青少年課の居場所事業や団体が独自に実施している支援事業等からボランティア体験の希望者を募り、3年間で確立したプログラムを当事者のニーズに合わせて市と団体が協力して継続的に実施することで、一人でも多くの当事者が自立できるように支援していく。</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) トクテイヒエイリカツドウホウジン ゼンシン 特定非営利活動法人 ゼんしん		
②所在地	〒 平塚市		
③ホームページ	http://ameblo.jp/zenshin-maekatsu ※ブログを公開中		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	柳川 涼司 (役職) 理事長	
	電話	(連絡可能な時間帯) 10時から22時	
	FAX		e-mail
	住所	〒 平塚市	
⑤設立年月	平成 23 年 10 月 (法人格取得年月 平成 24 年 9 月)		
⑥会員の状況	個人会員	51 人 (うち平塚市民 21 人)	団体会員 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>1) 居場所の提供：不登校・ひきこもり当事者親子が集い、意見交換等を行う。 ・平成 29 年度 延参加者：152 名 ・平成 30 年度 延参加者：146 名</p> <p>2) 就労支援相談会&プチ・パソコン講座の開催：ひきこもりやニート状態にあり、就労に悩む親子へ相談会や就職後に役立つパソコン講座等を開催。 ・平成 29 年度 延参加者：189 名 ・平成 30 年度 延参加者：207 名</p> <p>3) 講演会の開催：臨床心理士ほか講師を招き、実践的な支援手法を学ぶ。 ・平成 29 年 2 月 参加人数：30 名 ・平成 30 年 2 月 参加人数：32 名</p> <p>4) 訪問支援：当事者親子の各家庭他へ訪問し、個別相談やパソコン講座を実施。 ・平成 29 年度 205 件 ・平成 30 年度 197 件</p> <p>5) 受託講座：コミュニケーション・人間関係講座(神奈川県) H29 年 112 名、H30 年 31 名</p>		
⑧協働事業との関わり	<input type="checkbox"/> 新たな事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	① 理事長	柳川 涼司	事業全体の総括(産業カウンセラー)
	② 副理事長	竹内 亮	企画考案補佐、ピアサポーター
	③ 理事	手塚 明美	当事者・支援者の紹介、運営助言
	④ 理事	坂田 美保子	当事者・支援者の紹介、運営助言
	⑤ 理事	佐藤 五十男	当事者・支援者の紹介、運営助言
	⑥	大倉 香澄	ピアサポーター、チラシ製作、受付
	⑦	江藤 佳子	ピアサポーター、受付
	⑧	篠原 良美	ピアサポーター、マニュアル作成
	⑨	浅倉 朱実	マネジメント、マニュアル作成
⑩	柳川 範子	会計管理、収支決算報告の作成	

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	632,180円	市の支出	627,880円
		団体の支出(他の収入等)	4,300円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 627,880	
団体の支出	4,300	団体の会計より支出
事業収入	0	ボランティア体験の参加費は、徴収しない
収入合計	A 632,180	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
謝金	234,000	234,000	総括責任者(産業カウンセラー/心理相談員): ①事前ヒアリング：5H×1日×1人×1,200円 ②編集会議：5H×5日×1人×1,200円 ③マニュアル等の書類作成：5H×16日×1人×1,200円 ④スタッフ研修：7.5H×5日×1人×1,200円 ⑤ボランティア体験試験：7.5H×5日×1人×1,200円 ⑥振り返り等の会議：5H×2日×1人×1,200円
謝金 (ボランティア)	300,000	300,000	団体スタッフ(ボランティア): ①事前ヒアリング：5H×1日×3人×800円 ②編集会議：5H×5日×3人×800円 ③マニュアル等の書類作成：5H×6日×1人×800円 ④スタッフ研修：7.5H×5日×3人×800円 ⑤ボランティア体験の試験：7.5H×5日×3人×800円 ⑥振り返り等の会議：5H×2日×3人×800円
事務用品費	26,300	22,000	ボランティア体験に活用するマニュアル資料等の印刷用インク(4色)：5,380円×3組、(黒色)1,100円×5組 スタッフが用いる文房具類(カーポールペン8本、ノート6冊、名札6組、クリアファイル等)：4,660円
旅費交通費	56,880	56,880	団体スタッフ：(500+1,300+1,360円)×18日
保険料	15,000	15,000	ボランティア体験者の傷害保険：0円(平塚市市民活動災害補償制度を利用)、団体スタッフ：1,000円×5日×3人
支出合計	B 632,180	D 627,880	

注) 収入合計Aと支出合計B、及び、市の支出Cと支出合計Dは同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)
平塚市長

団 体 名	NPO 法人フードバンクひらつか
代 表 者	大関めぐみ
事業担当課	環境部環境政策課
提 案 型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 (提案 1 年分) <input type="checkbox"/> 継続 (平成 年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。日本では、年間 2,759 万トン(※)の食品廃棄物等が出されています。このうち、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は 643 万トン(※)。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量(平成 29 年で年間約 380 万トン)の 1.7 倍に相当します。</p> <p>また、食品ロスを国民一人当たりで換算すると”お茶碗約 1 杯分(約 139g)の食べもの”が毎日捨てられていることになるのです。</p> <p>大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、食品ロスを減らすことが必要です。</p> <p>※農林水産省及び環境省「平成 28 年度推計」</p> <p>食品ロスの削減とは、まだ食べることができる食品が廃棄されないようにするための社会的な取組をいいます。食品ロスを生んでいる 1 つに、賞味期限の認識をはじめとする市民及び事業者の過度な鮮度志向や製造工程のロスなどが挙げられます。本事業は、そうした理由により廃棄されていた食品を有効利用し、必要とする方々にお届けすることで、廃棄物の発生抑制につなげることを目的とするものです。</p>	
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必 要 性	<p>これまでの慣習を見直し、食べることができる食品を廃棄しないための取組を市内で広げるには、日々「未使用食品」を必要としている方に届けている市内の NPO 法人フードバンクひらつか (以下「FB ひらつか」という。) と廃棄物施策を担う市環境部が協働して仕組みを作るのが有効です。</p>
	メ リ ツ ト	<p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) 相対的貧困者は、FB ひらつかを通じて安定的に食品を得ることができます。事業者は FB ひらつかが構築する WEB アプリを用いたプラットフォームに参加することで、税制上の全額損金処理が可能な食品提供をしやすくなるほか、廃棄物処理費の低減、CSR の向上が期待できます。</p> <p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) プラットフォームの構築により幅広い業種から、多様な食品等の寄付を募りやすくなります。市の食品ロス対策の 1 つとして位置づけられるため事業の信頼性が増すので、活動がしやすくなります。</p>

	<p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) FB ひらつかのノウハウを共有し、協働することで「食べることができる食品を廃棄しない」ための仕組みづくりが構築できます。</p>
<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い思いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>税制上の損金処理が可能になる食品提供先のフードバンクだからこそ、このプラットフォームの構築が可能な事業です。食品の運搬等に要する費用も税制上の対象となります。FB ひらつかにとっては、プラットフォームを基にした効率的な食品の管理・配送や使用料の取得、損金処理手続きを円滑化する同システムは事業者にとっては寄付行為を促進する手立てとなります。このことは安定的に食を必要な方にお届けすると同時に、廃棄物の削減につながります。食品ロス削減と食の安定供給を持続可能なものとする『三方よし』の仕組みが構築できると考えます。</p>
<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>事業概要 食品関連事業者は大量に同じ食品を在庫として所有している企業を対象に、その在庫が廃棄になる際、その食品をフードロス削減目的として FB に寄付して頂くよう促していきます。具体的には製造業、加工業、卸売業が主になります。加えて、従業員向けの売店や小売店なども対象としていきます。その食品は食品関連事業者が web アプリを利用して廃棄食品の登録を行い、主に FB が食品関連事業者へ回収に伺い、合意書、契約書に基づき FB の所有物として web アプリでの管理、FB 利用者への無償配布を行います。それにより相対的貧困の解消に寄与していきます。</p> <p>運営費 web アプリを軸として利用料を頂戴しこの活動を継続していく運営費としていきます。利用料については月 2000 円～廃棄にかかる費用相当額で設定していこうと考えています。 目標企業数×月額 2000 円＝市の支出額に近くなるよう設定してあります。 目標に届くということは、4 年目以降も自立した運営が可能であることを示しています。</p> <p>仕組み 食品を寄付する側に、この活動を促進するメリットがございます。今年 5 月に公布、その 6 月（6 か月の意味）を超えない範囲で施行となる食品ロス削減推進法により、食品ロスの削減が推進されるための目玉ともいえるべき、食品廃棄行為の寄付への転換においては全額、寄付金としては扱わない、というメリットを市内食品関連事業者に受けて頂きながら食品ロス削減を実行して行くことが出来ます。これにより、食品関連事業者は廃棄物処理費の削減による金銭的メリット、CSR の向上を得ることになります。</p> <p>モデルケース 1 食品関連事業者がまだ食べられる食品を 100g 入り 200 円の品を 5000 個、500 k g 程（中型トラックの 1/4 程度）廃棄しなくてはならなくなった。 2 廃棄をする場合、廃棄費用は処分費 50 円/k g 運搬費 48 円/k g 計 98 円/k g かかる。49000 円の廃棄費用となる。 3 寄付をする場合、帳簿価格 200 円の商品 5000 個で 100 万円の寄付となり寄付控除を超えて税金がかかってしまう。</p>

例) 資本金 1000 万円 所得 1500 万円 1 年決算の法人の場合
(1000 万円×12/12×2.5/1000+1500 万円×2.5/100) /4=10 万円
が損金計上できる額

このケースで税金が 30%かかったとして
寄付金 100 万円に対し 10 万円の損金計上をしても、残りの 90 万円には
税金がかかり 90 万円×0.3=27 万円の費用がかかる。

4 処分費用 4.9 万円を支払うか、寄付をして 27 万円支払うか、金額的メリッ
ットは廃棄したほうが圧倒的に良い。

5 この法律の施行により、フードバンクへの寄付は全額、帳簿価格にて損
金計上が可能となる。(平塚税務署法人税担当加藤様に確認済み) それに
より、廃棄した場合 4.9 万円、寄付した場合 0 円となり、金額的メリッ
ットは 4 に対し逆転する。

全額寄付金として扱わない→全額損金算入が認められるためのポイント
は、

1、フードバンクへ寄附した食品が、「食品ロス削減のためである」とい
うこと。社内ルールに従って、廃棄予定の食品をフードバンクに提供する
もの。

2、社外から見て、提供した食品が目的以外に使われないことが担保され
ること。(関係法令通達 法人税法 第 22 条第 3 項、第 37 条)
これはこういう理由で廃棄する相当のもので、合意書内できちんとルール
化されていること。

の 2 点です。

実務的には、社内ルール、合意書、契約書等の作成、実際に廃棄が出た際、寄付できる食品があることをフードバンクに通知、食品関連事業者の都合を通知、フードバンク側の効率の良い回収ルート作成、それに沿った回収日の通知、在庫管理、賞味期限の管理、食品のトレース、配った食品の目的と行先の通知、企業の損金処理、などをしなければなりません。残念ながら我々フードバンクひらつかにはこれを一件ずつデータ作成して食品関連事業者の満足いく対応をしていくだけの能力も人数も要していません。また、企業側もこの新しい法律を熟知している人ばかりではなく、雛形がない現状での社内ルールや契約書などの作成、食品のトレースにおいては多大な労力がかかり、これが企業の食品ロス削減へ一歩踏み出せない理由にもなりかねません。

そこで、既に販売されている在庫管理アプリにはない、フードロス削減にかかわる専用 web アプリの開発を行い、試行していきます。内容については上記行程を極力網羅し、互いにリアルタイムに現状を把握できるようにしていく予定です。また、集計の際もアプリ内での集計、成果の報告が可能です。これにより、より簡潔に食品ロスへ舵を切れる企業が増えていくと考えます。

初年度は、WEBアプリの構築に向けた協力業者との調整・設計・構築・試行運用までを目標とします。

☆以下、WEBアプリ開発業者を「協力業者」と表記

時期	作業内容
4月	・WEBアプリの基本設計を協力会社とFB(3)で協議
5~9月	・協力業者はWEBアプリを開発 ・FB(3)は利用規約、対応マニュアル、財務上の処理手続きの内容を検討
10~11月	・FB(4)と協力業者はWEBアプリの動作確認 ・FB(4)と協力業者は利用規約等の修正
11月	・FB(4)は一部の食品関連事業者に周知
12月~	・FB(4)はWEBアプリの試行運用
1月	・協力業者とFB(4)は運用状況を確認、修正
2月~	・FB(4)と市は食品関連事業者に周知を拡充

※カッコ書きの数字はFB人員数

⑤事業概要・計画

スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) トク化エイカツウホウジンフードバンクひらつか 特定非営利活動法人 フードバンクひらつか		
②所在地	〒 平塚市		
③ホームページ	http://foodbank-hiratsuka.com		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	久松周史 (役職) 副理事長	
	電話	(連絡可能な時間帯) 11時から16時	
	FAX		e-mail
	住所	〒 平塚市	
⑤設立年月	2017年 7月 (法人格取得年月 2018年 12月)		
⑥会員の状況	個人会員	16人 (うち平塚市民 14人)	団体会員 1団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>・まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を一般家庭や企業などから寄付を受け、ひとり親家庭や支援を必要とされる方、児童福祉施設などへ食品を無償で支援する活動を行っています。</p> <p>・現在、平塚市環境部とは食品ロス対策の一環として、毎月1回市役所1階の多目的ホールでフードドライブ(食品寄付の受付)を行っています。</p> <p>・活動実績は2019年7月現在において、支援登録世帯が232世帯、支援回数が634回です。</p>		
⑧協働事業との関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①代表	大関めぐみ	総括
	②副理事長	久松周史	営業、ソフト開発業者との調整、経理
	③スタッフ	瀧澤好美	ソフト開発業者との調整、営業
	④スタッフ	齊藤園枝	在庫管理、配達、広報、電話対応
	⑤スタッフ	藪下佐知子	在庫管理、配達、広報、電話受付
	⑥スタッフ	正木光枝	在庫管理、配達、広報、電話受付
	⑦スタッフ	戸部たづ子	在庫管理、配達、広報、電話受付
	⑧スタッフ	岡田真一	営業、経理補助
	⑨スタッフ	露木勝義	営業、経理補助

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	4,958,507円	市の支出	4,958,507円
		団体の支出(他の収入等)	0円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 4,958,507	
団体の支出	0	
事業収入	0	
収入合計	A 4,958,507	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
人件費	2,873,507	2,873,507	【4～9月】821,002円（2名分） →983円×4時間×17.4日×2名×6ヶ月 【10月～3月】1,231,503円（3名分） →983円×4時間×17.4日×3名×6ヶ月 【4～3月】821,002円（総括1名分） →983円×4時間×17.4日×1名×12ヶ月
交通費	174,000	174,000	【11～3月】174,000円（2名分） →1,000円/日×17.4日×2名×5ヶ月
通信費	21,000	21,000	郵送21,000円→84円×50通×5ヶ月
広告宣伝費	90,000	90,000	チラシ作成40,000円→20,000円×2種 チラシ印刷40,000円→20,000円×2種 協力企業へのノベルティ1000×10社
外注費	1,800,000	1,800,000	食ロス削減WEBアプリ開発関連経費
支出合計	B 4,958,507	D 4,958,507	

注) 収入合計Aと支出合計B、及び、市の支出Cと支出合計Dは同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

平塚市長 殿

令和2年度「事業」提案書

団体名	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
代表者	小林 信武
事業担当課	交通政策課
提案型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型（ <input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門）
新規・継続	<input checked="" type="checkbox"/> 新規（提案1年分） <input type="checkbox"/> 継続（平成 年度～）

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容（事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。）

<p>①事業名</p>	<p>バリアフリーサポートサイト構築</p>	
<p>②事業の目的・必要性</p> <p>なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。</p>	<p>平塚市では「平塚市バリアフリー基本構想」及び「平塚市バリアフリー基本構想に基づく事業計画」に沿い、重点整備地区を定め公共施設や公共交通機関・道路等対象に優先的にバリアフリー整備を推進中であり、バリアフリー化が進んでいて広くPRしやすい街になっており、また整備状況は行政をはじめ各事業者により各々市民への発信が行われている</p> <p>一方、このサービスの享受者である障がい者・高齢者・ベビーカー利用者等市民（以後「バリアフリー対象者」とする）からすると整備の情報は市のホームページや冊子・配布資料、対象の各施設、更に交通機関のホームページ等断片的なものと言わざるをえず、それぞれを確認しなければならないという面倒な作業が強いられる。加えて網羅性にも不安が残る。</p> <p>このような状況からバリアフリー情報をワンストップで提供する市民（生活者）目線での特化したポータルサイトが必要である。不安や不便を感じることなく市民や来訪者が平塚を快適に移動できる様なまちづくりが望まれている。</p> <p>加えて、公共施設のみならず市民の日常生活に必要な施設も対象に含める事により利便性の更なる向上に寄与するものと思われる。</p>	
<p>③協働の必要性・メリット</p> <p>なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。</p> <p>また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。</p>	<p>必要性</p>	<p>バリアフリー整備は前述のように公共施設や公共交通機関・道路等対象となるが、まさに行政＝市が一体として推進する市民サービスの一つである。従って関連する情報等はすべて行政（およびバリアフリー推進協議会）が持たれているので、提供戴く事が事業の前提になる。</p> <p>本ポータルサイトの利用者であるバリアフリー対象者がバリアの情報を容易に且つ漏れなく確認でき、安心して街歩きに出かけることができる様に、既存のバリアフリー関連情報を提供しているポータルサイトを補完する市民目線に特化したポータルサイトの作成により市民の行政サービスに対する満足度の向上が期待できる。</p> <p>また、本ポータルサイトを通じて、バリアフリー対象者からその評価やご意見を事業者側にフィードバックすることにより本バリアフリー整備事業の質の向上も期待できる。</p>

	<p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など)ターミナルや訪問先施設、移動交通手段や道路、支援者情報等のバリアフリーの状況をそれぞれ個別に確認が必要な状況から、ワンストップで容易に確認できることにより、情報の壁と移動の壁を限りなく低くでき、バリアフリー対象者が平塚の街歩きを一層楽しんでもらえることが期待できる。</p> <p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など)行政が行っているバリアフリー整備事業のデータがベースとして活用でき、推進を構成する諸団体との情報交換や協力依頼等の仲介を戴く事等も期待でき、そういったものが反映されれば本ポータルサイトの有用性、信頼性、網羅性、経済性等の向上が大いに図れる。</p> <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など)本ポータルサイトより、バリアフリー対象者の目線に沿い、バリアフリーの情報を伝達する事により利便性が増し、その情報に対する評価、要望を吸い上げ市にフィードバックすることにより、行政サービスの質の向上、ひいては平塚市の魅力アップに繋がることを期待できる。</p>
<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>全国的に施設＝点のバリアフリー整備は行われているが、施設から施設の移動＝線を含めた整備の状況を情報ルートマップ、ルート動画、施設画像、コメント、バリアフリー情報などを使い一貫して提供しているところは殆ど見られない。大変便利な注目されるサイトになると確信する。今後観光促進という観点からも牽引の一躍を担えるのではないか。</p>
<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>初年度は、特定の公共施設や他生活関連施設、駅から施設間の経路の現地検証による情報データベースの構築とプロトタイプを構築し、行政・推進団体等のニーズやユーザの意見など情報収集を行い、以後の開発に繋げる。</p> <p>4月～6月 現地検証等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらつかバリアフリーマップの作成支援 ・行政の既存データの分析 ・公共施設や生活関連施設、駅から各施設までのルート等の現地検証 ・関連団体との協議、利用者意見交換会 <p>7月～9月 データベースの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースの構築 ・プロトタイプの制作 ・利用者意見交換会 <p>10月～12月 プロトタイプの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連各団体との意見交換、利用者意見交換会開催 ・プロトタイプの修正・改善 <p>1月～3月 ポータルサイト原型作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レイアウト・テンプレートの完成
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等のバリアフリー情報の現地検証 ・駅から公共施設等に至るルートの現地検証と市との推奨ルートの策定 ・推進協議会参画団体等からの当団体へのデータ取得と検証 ・ポータルサイトの構築・運用 ・ひらつかバリアフリーマップの作成支援

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ)トクテイヒエイリカツドウホウジン ショウナンフジサワシニアネット 特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット		
②所在地	〒 神奈川県藤沢市		
③ホームページ	https://www.sfs-net.com/		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	小林 信武 (役職) 代表理事	
	電話	(連絡可能な時間帯) 10時～17時	
	FAX	e-mail	
	住所	〒 神奈川県藤沢市	
⑤設立年月	平成 16 年 7 月 (法人格取得年月 平成 16 年 7 月)		
⑥会員の状況	個人会員	101 人 (うち平塚市民 2 人)	団体会員 0 団体
⑦活動内容 ・活動実績	当団体は「(地域)社会に貢献」することを目的に、IT教育、PC&LAN、ホームページ制作支援、ビジネスサポート、「えのぼ」ポータルサイトの運営、健康づくり、環境、福祉・医療支援及び学習支援や自治会町内会応援、いきいきシニアライフ応援等多岐にわたり活動を行っている。 ホームページ制作支援グループの協働事業実績としては、平塚市との「ひらつかスポーツナビ」、茅ヶ崎市との「ちがさきエコネット」や「茅ヶ崎市立図書館デジタルライブラリー」、藤沢市との「えのぼ」「おいしい藤沢産」等。		
⑧協働事業 との関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①	瀬下 孝之	プロジェクトマネージャー
	②HPWG リーダー	山本 実	プロジェクトリーダー
	③	梅津 仁	プロジェクトサブリーダー
	④	田嶋 亜樹	制作問題担当
	⑤	福王子 明彦	制作問題担当
	⑥動画 WG リーダー	市川 幸利	動画関連担当
	⑦	岩本 勲	地域問題担当
	⑧	高橋 聡	地域問題担当
	⑨	松本 勝廣	バリアフリー担当
⑩代表理事	小林 信武	総合監修	

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	2,602,000円	市の支出	2,602,000円
		団体の支出(他の収入等)	円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 2,602,000	
団体の支出		
事業収入		
収入合計	A 2,602,000	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
人件費	90,000	90,000	プロジェクト管理 1人×60工数×1,500円
同上	90,000	90,000	企画 1人×60工数×1,500円
同上	90,000	90,000	施設検証 2人×15ヶ所×3hs×1,000円
同上	240,000	240,000	ルート検証 2人×30ルート×4hs×1,000円
同上	110,000	110,000	関連団体との協議 2人×10団体×2hs×2回×1,000円、利用者意見交換会 5人×2hr×3回×1,000円
同上	1,200,000	1,200,000	サイトのプロトタイプ作成 4人×1,500円×200hs
同上	90,000	90,000	市との定例会 5人×1,500円×2hs×6回
同上	90,000	90,000	バリアフリーマップの作成支援 2人×30hs×1,500円
人件費(計)	2,000,000	2,000,000	
事務用品	100,000	100,000	ソフト購入・インク代 約60,000円、 カメラ(手振れ補正機能搭載) 約40,000円
同上	50,000	50,000	サーバ・ドメイン費用
事務用品(計)	150,000	150,000	
旅費交通費	237,000	237,000	片道料金790円×150往復 (統一基準として県庁→平塚間を使用)
消費税(人件費・事務用品)	215,000	215,000	10%

支出合計	B 2,602,000	D 2,602,000
------	-------------	-------------

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

令和2年度「事業」提案書

令和元年8月15日

(宛先)

平塚市長

団体名	ひらつか生物多様性推進協議会
代表者	荒井 啓三
事業担当課	環境保全課
提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型 <input type="checkbox"/> 市民提案型 (<input type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 (提案 年分) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成31年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	平塚市生物多様性保全推進事業	
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>平塚市は西部丘陵、河川、海浜等には豊かな自然環境が残されており、生物多様性の視点から現状を把握するため、調査、分析、評価した自然環境評価書を作成する。それを基に市民の自然環境への愛着を育み、生物多様性の豊かさを後世へつなげていくことを目的として生物多様性を保全、活用するための行動計画((仮称)生物多様性アクションプラン)を策定する事業である。</p> <p>この事業は、市民、事業者、行政が協働で取り組み、平塚市内に残る生物多様性を保全するとともに、その自然環境を活用して市民の暮らしを豊かにし、自然と調和した街づくりに繋がる取り組みである。</p>	
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必要性	生物多様性を保全し平塚市の豊かな自然環境を将来につなげるためには市民、事業者、行政、それぞれの立場で取り組みを推進するとともに、各主体間での連携を深め、協働による活動の展開が必要となる。
	メリット	(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) 市民が市内に残る生物多様性の現状を知るとともに、地域の生物多様性の保全を考え、活動することで、平塚市の自然環境を楽しみながら愛着を育むことができる。
		(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) 各団体等の自然環境に対する専門性を活かして生物調査や啓発事業を行うことは、団体等の活動の活性化につながるるとともに、協議会での活動を周知することで、その活動に共感し、各団体等の活動に参画する市民の拡大が期待できる。
		(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) 生物多様性推進協議会は生き物に造詣のある市民、団体、事業者で組織した団体あり、調査のノウハウや情報を活用することで、市民、事業者、行政の3者による効果的で実効性のある生物多様性を保全、活用するための行動計画を提案することができる。

<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>平成18年3月に自然環境評価書を作成してから10年以上経過しており、今回の生物調査により市内の自然環境の変化が把握できるとともに、本市における自然環境の貴重な資料となる。</p> <p>また、今回の自然環境評価書は市民団体が主体となり作成するが、作成した評価書を基礎資料として活用し、行政が主体となって生物多様性に係る行動計画を策定する。いずれの過程においても市民、事業者、行政の3者が協働で進めることは当市にとって初の事例である。生物調査や啓発イベントに市民、団体や事業者のノウハウを活かす等、各過程において市民等が参画している点が特徴的である。市が策定する行動計画に市民団体等の取り組みが反映され、市民との協働による事業展開が期待できる。</p>
<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>○事業概要</p> <p>令和元年度から令和3年度までの3年間で、市内の生物の生息状況を調査、分析、評価し、自然環境評価書を作成する調査事業と、調査結果などを基に生物多様性を保全するための啓発事業を市民や事業者と協働で行う事業。</p> <p>また、令和4年度には、令和3年度に作成する自然環境評価書を基に生物多様性を保全、活用するための行動計画を協働で策定する計画である。</p> <p>○調査事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要:平塚市内を陸域と水域に分け、令和元年度陸域、令和2年度水域を調査し、令和3年度に調査の分析、評価を行い、自然環境評価書を作成する。令和2年度は水域調査となるが、令和元年度の陸域調査の範囲が広大なため、単年度では収集するデータに不足が生じる可能性があるため、フォローアップ調査として令和2年度にも陸域調査を引き続き行う。 ・計画:水域調査は、平塚市内における相模川、金目川、海浜、水田の4エリアを、植物、昆虫、魚類・甲殻類、両生・爬虫類、鳥類、哺乳類の6班に分けて、通年調査を実施する。 <p>陸域調査は、令和元年度の調査のフォローアップとして通年行う予定であるが、具体的な調査範囲や調査回数などは今年度の調査結果を基に検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール:原則として各季節ごとに調査を行うが、調査種によっては時期を限定し集中的な調査が効果的なため、年1回の調査とする場合もある。 ・人員配置:リーダー、サブリーダーを置き、2名から10名程度で構成した6つの調査班を組織しており、令和元年4月から6月までに調査に携わった人員は35名、延べ666時間40分となっている。 <p>○啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要:市内の生物調査で得られた生物多様性の現況を市民に周知し、保全や活用を促す取り組みとして啓発活動を年4回実施する。 ・スケジュール:春、秋には観察会や学習教室などを2回開催する。 <p>また、令和元年度の調査の結果を周知する活動として、環境政策課が7月に開催する環境フェアへ出展及び横浜ゴムが11月に開催するThink Ecoへ参加し、市内における生物多様性の現状の情報提供を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置人員:各事業に、協議会会員による講師やスタッフなど4名程度を予定している。

(実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項)

令和3年度の事業予定

①調査事業

自然環境評価書の作成

- ・令和元～2年度の調査結果の取りまとめ
- ・フォローアップ調査:通年×6班×陸域エリア、水域エリア

②啓発事業

自然環境評価書の発表会の開催等

- ・発表会、観察会などのイベント回数目標:4回

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ヒラツカセイブツタヨウセイスインキョウギカイ		
	ひらつか生物多様性推進協議会		
②所在地	〒 平塚市		
③ホームページ	http://		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	荒井 啓三 (役職) 会長	
	電話	(連絡可能な時間帯)	
	FAX	e-mail	
	住所	〒 平塚市	
⑤設立年月	平成 30 年 5 月 (法人格取得年月 年 月)		
⑥会員の状況	個人会員	14 人 (うち平塚市民 12 人)	団体会員 8 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>生物多様性推進協議会は、平成 30 年 5 月に発足した団体で、これまでの活動としては、令和元年度から始める生物調査の準備として、調査エリアを視察し調査地区、対象種、調査方法、評価方法などを計画した。令和元年度は前年度に確定した調査手法により調査を開始している。また、啓発事業として、令和元年 6 月には市民を対象とした植物観察会を開催した。</p> <p>なお、協議会に登録している市民団体は各々生物調査や成果物の発行、イベント開催等の実績がある。</p>		
⑧協働事業との関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①会長	荒井 啓三	(里山をよみがえらせる会)
	②副会長	岸 一弘	昆虫班サブリーダー (学識経験者)
	③会計幹事	堀田 佳之介	会計・昆虫班リーダー (学校法人平岡学園 平岡幼稚園)
	④監事	柳川 三郎	監査・魚類・甲殻類班 (金目川水系流域ネットワーク)
	⑤運営委員	金子 典芳	鳥類班リーダー (日本野鳥の会神奈川支部)
	⑥運営委員	斎藤 常實	鳥類班サブリーダー (こまたん)

	⑦運営委員	瀬下 浩	両生・爬虫類班リーダー (学識経験者)
	⑧運営委員	長谷部 勇太	魚類・甲殻類班リーダー (神奈川県環境科学センター職員)
	⑨運営委員	恒川 礼子	植物班リーダー (神奈川県植物誌調査会会員)
	⑩運営委員	青木 雄司	哺乳類班リーダー (神奈川県公園協会職員)

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	3,960,000 円	市の支出	3,960,000 円
		団体の支出(他の収入等)	円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内 容
市の支出	C 3,960,000	行政提案型協働事業負担金
団体の支出	0	
事業収入	0	
収入合計	A 3,960,000	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
調査人件費	1,200,000	1,200,000	調査費用 ・水域調査(6班×200h×@600円) ・陸域調査のフォローアップ (4班×200h×@600円)
消耗品	20,000	20,000	・救急用具 虫刺され治療薬 1,000円×14本 14,000円 ・市内地図 3,000円×2冊=6,000円
事務費	20,000	20,000	文献コピー代等事務費 20,000円
保険料	70,000	70,000	・調査保険(1日当たりの対象人数20人/60,000円) ・イベント保険料5,000円×2回
分析・評価委託	2,500,000	2,500,000	・データの取りまとめ、分析、評価
講師謝礼(啓発事業用)	20,000	20,000	10,000円×2回
啓発事業人件費	20,000	20,000	1,000円/回×5人×4回
ポスター等作成委託料(啓発事業用)	30,000	30,000	ポスター等作成委託 15,000円×2枚
印刷製本費	80,000	80,000	・成果物の製本、印刷(400円×200冊)
支出合計	B 3,960,000	D 3,960,000	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)
平塚市長

団体名	ひらつか着地型観光推進委員会
代表者	前原 洋子
事業担当課	商業観光課
提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型 <input type="checkbox"/> 市民提案型（ <input type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門）
新規・継続	<input checked="" type="checkbox"/> 新規（提案1年分） <input type="checkbox"/> 継続（平成 年度～）

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容（事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。）

①事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>【事業の目的】 地域の資源を活用して、地域主体、地域発信で行う新しい形の観光である着地型観光のプログラム開発と実施及び情報発信を行うことにより、平塚の新しいイメージやブランドを創り出す。</p> <p>【事業の必要性】 平塚市は、平成30年の神奈川県入込観光客数調査の結果では、入込観光客数は750万人となっており近隣市町と比べて観光客数は多いですが、平塚市総合公園、湘南ひらつか七夕まつり、スポーツ観戦に全体の約6割が集中しており、首都圏であり、東京から近距離であることや自然豊かな環境、工業、農業などの産業や技術、教育施設や公園などの多様な地域資源を活かしきれていません。</p> <p>経済産業省発行の「平成27年度 産業観光を活用した地域活性化事例調査 事例集」にも掲載された久留米市においては、平成20年より市主導で着地型観光に取り組んでおり、現在は、年間80個のプログラムを開催しています。</p> <p>着地型観光を進めたことで地元を観光地として位置付けていなかった関係者の意識が変わったことや観光地としてのイメージアップが図られています。</p> <p>平塚市においても、新しい形の観光として着地型観光に取り組むことで、平塚の多様な地域資源がつながり、そして発展し、今までは特定の目的で平塚を訪れることが多く、点（ワンストップ）だった観光を線や面（ステイやスタディなど）へと展開することにより、新しい平塚のイメージやブランドを創り出すことが必要です。</p> <p>更には、着地型観光の推進により、交流人口が増加することで、定住人口の増加や持続可能なまちづくりに繋がる可能性があります。</p>

<p>③協働の必要性・メリット</p> <p>なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。</p>	<p>必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型観光は、これまで観光資源とは思われていない地域資源を工夫しながら市内外に観光として紹介することで新しい魅力を発信できます。 ・当委員会に所属するメンバーのこれまでの経験や知識をもとに、行政では公平性等の観点から難しい魅力的なプログラムのキュレーションをすることができます。 ・市の持つ工業、商業、農業などに関する情報・蓄積は地域資源の発掘に有意義なものであると考えます。 ・一般的な観光の手法ではない点で観光プログラムを提供する側の理解が進まない可能性や当委員会への信頼に懸念がありますが、行政と協働で進めることで、着実に事業を進めることができると考えています。
<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>メリット</p> <p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の市内全体への広報と団体でのプログラムに合わせたターゲットへの広報で、身近にある魅力と感じていないプログラムや、PR が個別で不十分なため気付かなかった魅力を再発見でき、地元への愛着が生まれます。 <p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政から着地型観光に関わる情報を得ることができます。 ・観光プログラムの作成にあたり、企業に提案などを行う際に、行政との協働であることで信頼性を持って進めることができます。 ・公共施設や広報など行政の持つメディアやノウハウを利用した情報発信ができます。 <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいひらつかをPR できます。 ・行政では公平性等の観点から難しい魅力的なプログラムを提供できます。 ・ターゲットにあったPR をすることができます。 ・平塚の企業や文化、歴史、自然などの魅力を、観光を通じて効果的に発信することができ、交流人口増加につながります。 ・企業間のネットワークが形成され、平塚の新しい成長エンジンとなります。 <p>近年は「見て・学ぶ」観光から「体験して・学んで・楽しむ」体験型の観光が主流になっています。</p> <p>これまでの「見て・学ぶ」観光は京都や鎌倉など「歴史」などの側面が強い印象ですが、平塚に根付いている自動車製造や化粧品香料製造などの工業、広大な水田と豊富な水を使った「はるみ」などの稲作やトマトやキュウリ、イチゴ生産などの施設園芸による農業、約30ヘクタールの広大な敷地を持つ平塚総合公園や海岸のビーチパーク、相模川沿いの馬入ふれあい公園などでの各種スポーツ体験も魅力的な観光資源です。</p> <p>それらの点として存在する資源を線・面として活用し、これらを活かした着地型観光を推進することにより、平塚の新しい価値の創造をめざします。</p>

	<p>本事業では、着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施を行います。</p> <p>着地型観光プログラムについては、年間10プログラムの観光プログラムを開発し、3箇年で30プログラムを開発する予定ですが、2020年度は、2018年度に行ってきたワークショップを踏まえるとともに、平塚市で行われている既にあるプログラムも活かしながら10プログラムを開発します。</p> <p>また、行政の持つ媒体や地元メディアを活用した情報発信を行うとともに、予約管理を行うためのシステム構築（Peatix等の既存のシステムの活用を想定）、プログラム実施レポートの聴取を行い、観光プログラムや推進体制の見直しをします。</p> <p>なお、2020年度の事業実施に先立ち、2019年度に組織体制の検討や観光資源の発掘を進めます。</p> <p>【事業スケジュール】</p>														
<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="491 860 624 927">時期</th> <th data-bbox="624 860 1489 927">実施項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="491 927 624 1088">4~5月</td> <td data-bbox="624 927 1489 1088"> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・予約管理システムの作成（4名） ・観光資源の発掘・観光プログラム化へ向けた営業（10名） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1088 624 1352">6月</td> <td data-bbox="624 1088 1489 1352"> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・予約システム完成・仮運用（4名） ・観光プログラムのプレ実施（1コンテンツ・3名） ・プレ実施を経たレポート作成と結果を踏まえた調整（各1名） ・予約システムへの掲載案作成（各1名） ・本格実施に向けた広告の作成等PR（2名） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1352 624 1516">7~8月</td> <td data-bbox="624 1352 1489 1516"> <ul style="list-style-type: none"> ・予約システム運用（2名） ・観光プログラムの実施（5コンテンツ・各2名） ・レポートの聴取（5コンテンツ・各2名） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1516 624 1588">9月</td> <td data-bbox="624 1516 1489 1588"> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告に向けた成果のとりまとめ（全体） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1588 624 1706">10~11月</td> <td data-bbox="624 1588 1489 1706"> <ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの実施（4コンテンツ・各2名） ・レポートの聴取（4コンテンツ・各2名） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1706 624 1825">12~3月</td> <td data-bbox="624 1706 1489 1825"> <ul style="list-style-type: none"> ・運営結果を踏まえた事業推進体制の見直し（全体） ・次年度に向けた観光資源の再発掘（10名） </td> </tr> </tbody> </table>	時期	実施項目	4~5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・予約管理システムの作成（4名） ・観光資源の発掘・観光プログラム化へ向けた営業（10名） 	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・予約システム完成・仮運用（4名） ・観光プログラムのプレ実施（1コンテンツ・3名） ・プレ実施を経たレポート作成と結果を踏まえた調整（各1名） ・予約システムへの掲載案作成（各1名） ・本格実施に向けた広告の作成等PR（2名） 	7~8月	<ul style="list-style-type: none"> ・予約システム運用（2名） ・観光プログラムの実施（5コンテンツ・各2名） ・レポートの聴取（5コンテンツ・各2名） 	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告に向けた成果のとりまとめ（全体） 	10~11月	<ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの実施（4コンテンツ・各2名） ・レポートの聴取（4コンテンツ・各2名） 	12~3月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営結果を踏まえた事業推進体制の見直し（全体） ・次年度に向けた観光資源の再発掘（10名）
時期	実施項目														
4~5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・予約管理システムの作成（4名） ・観光資源の発掘・観光プログラム化へ向けた営業（10名） 														
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・予約システム完成・仮運用（4名） ・観光プログラムのプレ実施（1コンテンツ・3名） ・プレ実施を経たレポート作成と結果を踏まえた調整（各1名） ・予約システムへの掲載案作成（各1名） ・本格実施に向けた広告の作成等PR（2名） 														
7~8月	<ul style="list-style-type: none"> ・予約システム運用（2名） ・観光プログラムの実施（5コンテンツ・各2名） ・レポートの聴取（5コンテンツ・各2名） 														
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告に向けた成果のとりまとめ（全体） 														
10~11月	<ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの実施（4コンテンツ・各2名） ・レポートの聴取（4コンテンツ・各2名） 														
12~3月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営結果を踏まえた事業推進体制の見直し（全体） ・次年度に向けた観光資源の再発掘（10名） 														

<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型観光に関わる資源の発掘（情報収集や見学など） ・資源を基にした観光プログラムづくり（事業者への提案や複数の事業者の調整など） ・情報発信（観光プログラムや団体の活動のPRなど） ・予約管理 ・フォロー（より魅力的なプログラムとなるための調整など） <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型観光に関わる地域資源の発掘の協力（情報提供など） ・観光プログラムづくりの協力（関わる団体との提案への同行など） ・市役所内の関係各課との調整 ・公共施設やメディアを使った観光プログラムや団体の活動PR ・事務の補助
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<p>平成30年度から行ってきたワークショップでは、地元企業や市の施設見学など、着地型観光に関わる資源の発掘を行い、その活動を踏まえ、平成31年3月31日に、着地型観光プログラムを実験的に行うため、市内で有機野菜を生産している株式会社いかすと協力し、野菜の生産のお話を聞きながら収穫体験や畑でランチをする「有機農園で遊ぼう！」をプレイベントとして実施しました。</p> <p>その経験がきっかけとなりメンバーが増え、個々に市内の事業所の見学に行くなど、プログラム作りに不可欠な他団体との連携ができつつあります。</p> <p>また、今後事業を進めるにあたり連携が必要になると想定される平塚市観光協会や青年会議所に所属するメンバーの加入もあり、今後、組織としての連携が必要になった場合にもスムーズに展開できるメンバーの構成が進んでいます。</p> <p>更に、今後は、交通事業者や地域スポーツクラブとの連携も視野に入れ、展開していく予定です。</p>
<p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<p>本事業では、平塚の魅力を発信し、多くの人に平塚を知ってもらうこと、平塚に来てもらうことを目標とします。</p> <p>そのため、次の成果目標を設定します。</p> <p>【行政の提案に対応した目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラム参加者：200人以上の参加 <p>【団体独自の目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平塚に初めて来た人：30人以上の獲得 ・平塚の新たな魅力を発見した人：100人以上の獲得

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ヒラツカチャクチガタカンコウスイシンイインカイ		
	ひらつか着地型観光推進委員会		
②所在地	〒 平塚市		
③ホームページ	http://		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	須藤 元 (役職) -会員	
	電話	(連絡可能な時間帯) 9:00 から 21:00 まで	
	FAX	-	e-mail
	住所	〒 平塚市	
⑤設立年月	平成30年10月 (法人格取得年月 年 月)		
⑥会員の状況	個人会員	15人 (うち平塚市民 15人)	団体会員 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年3月24日：キックオフワークショップを開催 以降、月1回程度ワークショップを開催し、市内の地域資源の新しい観光コースの検討と、県内着地型観光の実施先進事例として藤野観光協会の事務局長の講演会を開催した。 (※準備会としての活動) 平成30年10月20日：まちかど広場でワークショップの成果発表会を開催 (来場者：推定100名、観光アイデアアンケート：44枚聴取) 平成31年3月31日：プレイベント「有機農園で遊ぼう！」を開催 (募集人数20名に対し、50名以上の応募があり、抽選で24名が参加) 		
⑧協働事業との関わり	<input type="checkbox"/> 新たな事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①会長	前原 洋子	事業の総括・事業推進体制の検討 (観光プランナー)
	②副会長	菅原 崇	観光プログラムの検討・開発 (湘南電設業協同組合)
	③副会長	田中 純矢	観光プログラムの検討・開発 (平塚100人カイギ会長)
	④会計	染谷 健太郎	会計・事業推進体制の検討
	⑤監査	鈴木 奏到	監査・事業へのアドバイス (認定都市プランナー)

	⑥会員	花田 慎介	予約管理システム等作成 (株シンワ建装代表取締役)
	⑦会員	田中 翼	予約管理システム等作成 (株仕事旅行社代表取締役)
	⑧会員	坂田 美保子	事業へのアドバイス (湘南 NPO サポートセンター理事長)
	⑨会員	岩井 美由紀	事業へのアドバイス (平塚市観光協会職員)
	⑩会員	高橋 徹誠	会運営庶務

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	2,329,232 円	市の支出	1,699,232 円
		団体の支出(他の収入等)	630,000 円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 1,699,232	
団体の支出	30,000	団体会費：2,000 円/月×15 人
事業収入	600,000	10 プログラム×1 回開催×3,000 円/人×20 人/回 =600,000 円 (うち 80%はプログラム実施者謝礼、20%は団体の収入とする)
収入合計	A 2,329,232	

②支出

項目	予算額	うち市の支出	積算単価のなど具体的な内容
事務員人件費	808,800	808,800	プログラム参加者募集中の期間のみ雇用（7 月～11 月の 5 か月） =20 週（5 か月）×5 日×8h×1011 円×1 人 =808,000 円
法定福利費	113,232	113,232	事務員人件費×14%
プログラム作成者人件費	240,000	120,000	プログラム作成に係る人件費 =16h/1 プログラム×10 プログラム×1500 円 =240,000
事務員交通費	100,000	100,000	20 週（5 か月）×5 日×1,000 円
有償ボランティア	30,000	30,000	プログラム開催時の受付・案内等補助 =10 プログラム×3 人×1,000 円
プログラム実施者謝礼	480,000	0	48,000 円/1 プログラム×10 プログラム =480,000 円
システム使用料	49,200	49,200	Peatix 使用：チケット売上の 4.9%+99 円/枚 =3,000 円×0.049+99 円=246 円/枚 246 円×200 枚=49,200 円
備品購入費	200,000	200,000	パソコン及びプリンタ
通信費	75,000	75,000	携帯電話（プログラム開催中のみ） =15,000 円（月額・端末代込み、通話かけ放題）×5 か月
交通費	60,000	60,000	プログラム参加業者への営業（30 回）、企画調整（20 回）、開催時（10 回）×1,000 円

広告費	123,000	123,000	プログラム実施チラシ (A4 裏表カラー) =3,000 円/100 部×10 プログラム=30,000 円 会の紹介パンフレット (A4・4 面カラー) =93,000/1,000 部
事務費	50,000	20,000	会議・事務用品等
支出合計	B 2,329,232	D 1,699,232	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。